

今昔物語

卷之二
世俗部



今昔物語部 二目錄

○世俗傳

- 一 滋岳川人被追地神話
- 二 天文博士り削之雄占夢話
- 三 賀茂忠行傳道子保憲話
- 四 安倍晴明隨忠行習道話
- 五 播摩國陰陽師智德法師話
- 六 人妻成惡靈陰陽師除其害話
- 七 玄象琵琶為鬼被取話
- 八 三善清行宰相紀長谷雄論話



今昔物語 倭部二

○世俗傳

一 慈岳川人被追地神語

慈岳。當作滋岳。江談抄曰滋岳川人。文德實錄曰
齊衡元年九月丁亥。乃改直川人賜姓滋岳朝臣

今いひし。みすめ代文徳天皇うせさゆふい
あつみ。按天安二年八月廿七日崩 諸陵をよぎんぐらみ。大

納言安倍朝長安仁といひくろ人。うきまをぬりて。

そのこゝろむねをよむとて。人々をいふ。具く多。徳

陵乃ありゆふくろ。其射り慈岳川人

やうに陰陽師ありくろ。道よけはくろいふよ

とらざとせよあしびかたれあかりをたどり
 て諸陵乃ところと點じて
三代實録日外從五位下
行陰陽權助兼陰陽博士
滋岳朝臣川人外從五位下行陰陽助兼權博士並朝臣
名高又曰至山城國葛野郡田邑卿真原岡定山陵之地
 おくろねとば皆うりくるふ深草乃水の程と
 とれた川人丈納言のめくらしく馬込うらよをそ
 ろのいそみそとあしひるゑんをそね丈納言を
 うそを得てこれと聞てしそふといひくるは身
 づりけりぐとくは作のいどむは道よとらさり
 ありいそみとあやまらさつちつるふはいそみ大
 うあやまら作らるこれよとらとく程よく地神



退ありあなり。まゝ般し川人こそは罪なきが憂い付
らむ。のがれごゐらむとせむにたぐひもたぐひにた
ぐひの氣色をとりて。大納言とてそのやうに
あつて。まゝ我りもめくもつりなまひをひきぬいで
るまひひきぬ。川人けり。まゝのまひをひきぬ。ま
あしあしだ。まゝのまひをひきぬ。まゝのまひをひ
よりあつる人を。まゝのまひをひきぬ。まゝのまひをひ
ひきぬ。まゝのまひをひきぬ。まゝのまひをひきぬ。ま
れあつて。まゝのまひをひきぬ。まゝのまひをひきぬ。ま
まゝのまひをひきぬ。まゝのまひをひきぬ。まゝのまひをひきぬ。

川人こそはまゝのまひをひきぬ。まゝのまひをひきぬ。ま
の中とて。まゝのまひをひきぬ。まゝのまひをひきぬ。ま
あつて。まゝのまひをひきぬ。まゝのまひをひきぬ。ま
る。まゝのまひをひきぬ。まゝのまひをひきぬ。まゝのまひをひ
まゝのまひをひきぬ。まゝのまひをひきぬ。まゝのまひをひきぬ。
まゝのまひをひきぬ。まゝのまひをひきぬ。まゝのまひをひきぬ。
まゝのまひをひきぬ。まゝのまひをひきぬ。まゝのまひをひきぬ。
まゝのまひをひきぬ。まゝのまひをひきぬ。まゝのまひをひきぬ。
まゝのまひをひきぬ。まゝのまひをひきぬ。まゝのまひをひきぬ。
まゝのまひをひきぬ。まゝのまひをひきぬ。まゝのまひをひきぬ。
まゝのまひをひきぬ。まゝのまひをひきぬ。まゝのまひをひきぬ。

今昔物語の御用巻二

して是よりさる中うにふらんふらふや。あつらふとては
 遁のまねくこと。土つち乃のろくろぬあつては。はづらひあつと
 づーやよひてあつらひ。あつらひあつては。あつらひあつと
 一と。はくいのしつと。あつらひあつては。あつらひあつと
 ちよひ今日けふこそくおとよ。はあよひあつらひあつと
 うやいあつと。あつらひあつては。あつらひあつと
 ち得とてん。各それぞれ其それぞれ夜よあつらひあつと。あつらひあつと
 うのらあつと。あつらひあつては。あつらひあつと
 ころ。あつらひあつと。あつらひあつては。あつらひあつと
 ば。あつらひあつと。あつらひあつては。あつらひあつと

こやあつと。あつらひあつては。あつらひあつと
 ちよひあつと。あつらひあつては。あつらひあつと
 ころ。あつらひあつと。あつらひあつては。あつらひあつと
 ば。あつらひあつと。あつらひあつては。あつらひあつと
 こやあつと。あつらひあつては。あつらひあつと
 ちよひあつと。あつらひあつては。あつらひあつと
 ころ。あつらひあつと。あつらひあつては。あつらひあつと
 ば。あつらひあつと。あつらひあつては。あつらひあつと
 こやあつと。あつらひあつては。あつらひあつと
 ちよひあつと。あつらひあつては。あつらひあつと
 ころ。あつらひあつと。あつらひあつては。あつらひあつと
 ば。あつらひあつと。あつらひあつては。あつらひあつと

して。川人おれは。そ。びく。い。う。ゆ。く。の。が。し。わ。ら
 ぶ。う。い。今。の。お。も。し。も。う。を。う。い。は。し。て。去。り
 たり。大。納。言。の。い。は。し。て。川。人。を。降。し。し。り。う。そ。い
 を。あ。つ。う。川。人。の。き。こ。い。す。し。れ。と。後。湯。師。ち。り
 や。ち。ん。う。り。は。し。て。え。う。り。や。

二 天文博士 是雄 占夢又詔

今。い。し。し。何。某。こ。い。う。老。穀。藏。院。拾。芥。抄。曰。穀。藏。院。二。条。南。朱。雀。

西在、大寺、西、納、畿内諸國、銅、錢、無、主、位、職、乃、使、中、て、その
 封、戸、を、あ、ま、さ、し、び、ぬ、り、東、國、の、方、よ、り、て、目、を、
 経、く、う、り、の、ち、ら、と、近、江、國、勢、多、の、驛、に、宿、と。

う。の。何。う。近。江。國。日。後。湯。師。天。文。博。士。是。雄。

姓氏録曰弓削宿禰神饒速日命之後也。是雄其後胤也歟。

是雄男よ向く。い。う。い。づ。ま。の。本。あ。ら。い。だ。
 ま。の。本。あ。ら。い。だ。同。男。若。く。い。う。い。づ。ま。の。本。あ。ら。い。だ。

乃。封。戸。を。あ。ま。さ。し。び。ぬ。り。東。國。の。方。よ。り。て。
 今。い。し。し。の。ち。ら。と。近。江。國。勢。多。の。驛。に。宿。と。
 兼。う。け。て。時。寝。入。た。ち。う。り。の。男。若。く。い。う。い。づ。ま。の。本。あ。ら。い。だ。
 さ。わ。ら。は。は。是。雄。よ。い。う。い。づ。ま。の。本。あ。ら。い。だ。
 今。い。し。し。の。ち。ら。と。近。江。國。勢。多。の。驛。に。宿。と。

くち申り申す。おどい射るる人とし。鷹たかの中より法師一人おどる。則すなはち後者ごさこれとくちめて同ま
まじりていそぎりける。志こころより同きて。かくと
事こと公こう好こうむと。るづらうがまれ。清きよ房ぼう廿年にじふねんるは殿との
乃すなはち上うへ穀こく藏ざう院いん。男子なんしと妻つま。今日けふのめり
うらうと聞きく。侍してるううまれと。上うへ乃すなはち作つくりて。け
かされてうらむい仕しぬと。早はやに男おとここれをまて。けの
宿しゆく報ほうくくして。是こゝ雄ゆうと同どう宿しゆくして。令しん公こうなとる
くる方かたがこさよとよる。さびて。まづ是こゝ雄ゆうが方かたよ
じりて。誅しゆく。ら法師ほうしと。檢けん非ひ遠えん使しみ

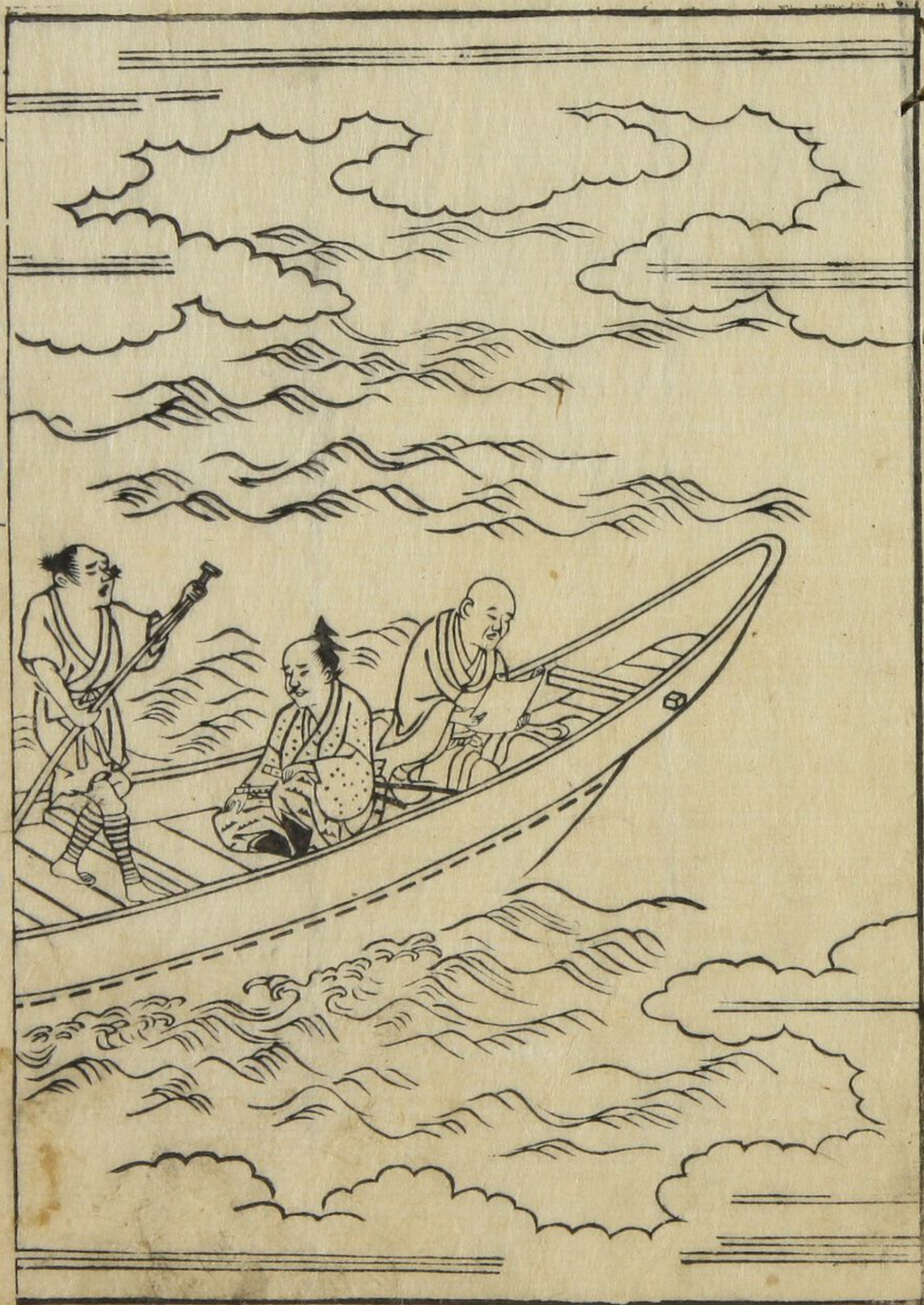
辰つとも。妻つま公こうハ退ひ出でく。ら。じりハ是こゝ雄ゆうふ。おど死
あ。これふ。後ご陽やう師しと。ま。と。お。ま。ん。く。ら。け
く。え。く。ら。と。也

三 賀茂忠行傳道子保憲諸

といひ。賀茂忠行かもちゅうぎょう傳道でんどう子保憲しほけん諸しよ
丹波權頭たにはたごんどう從五位下じゆごいご出羽介でづまゐ從
小黒磨こくろま諸雄しよゆう。人磨にんま。江人えいじん。忠行ちゅうぎょう。姓せい氏し録りく曰い賀茂縣かもちのこた
主ぬし神かみ龜かめ命のみこと孫まご武ぶ津つ身み命のみこと之後のち也なり。志こころ行ぎやう其その裔ゑい也なり。といひ。後ご陽やう師し
師しあ。ら。ま。ら。道みちう。け。と。そ。つ。あ。く。う。も。く。ら。と。也
け。く。も。肩かた公こうを。う。づ。る。老おいあ。く。この敷しきよ。公こう私しめ
これをやん。これと。考かうる。ぞ。用もちり。れ。る。志こころう。ら。に
あ。る。日ひ。人ひとあ。り。て。ば。老おいの。と。の。を。後ごと。せ。さ。す。る

了。わろ。たのゆんをそ出さくらぬ。且つ子保憲
陰陽天文博
士主計權助 ころのたの十家さうげらありし。ぐ。と。ゆ。に。は
 後うしろ殿。ゆ。を。後うしろと。するに。保憲いんげんの具ぐそ。と。の。指さ
 て。これ。を。と。れ。後うしろに。わ。ら。ぬ。ま。た。の。人。等らう
 ぬ。た。れ。も。保憲いんげんと。具ぐして。くら。ぬ。保憲いんげんは。母。向
 しく。後うしろの。あ。を。と。ん。け。ま。い。人。よ。い。わ。ら。ざ。ら。ぬ。の
 ね。を。け。げ。た。ら。ぬ。二。と。十。人。くら。ぬ。出いま。て。な。ら。ぬ
 了。と。ら。ぬ。ぬ。と。ら。ぬ。い。て。ば。くら。ぬ。ぬ。ら。ぬ。船ふね東あづまを。る
 ぬ。ぬ。の。ら。ぬ。ら。ぬ。ぐ。ぬ。ら。ぬ。け。ら。ぬ。何なにを。と。ら。ぬ

づ。と。同おなか。ぬ。これ。を。ゆ。て。り。ま。を。せ。は。道みちを。ぬ。か。て
 い。世よよ。と。ら。ぬ。ら。ぬ。もの。あ。れ。ま。ら。ぬ。幼童おとこれ。何なによ。い
 け。鬼おにを。と。ら。ぬ。は。ま。ら。ぬ。物ものの。い。て。を。後うしろ
 く。同おなか。ぬ。け。た。れ。ま。い。の。目めよ。鬼おにを。と
 と。ら。ぬ。い。ま。い。ぬ。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ。の。よ。か。ら。ぬ
 よ。ま。の。ふ。ら。ぬ。と。ゆ。て。ぬ。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ
 我われ道みちよ。ま。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ
 なく。ぬ。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ
 ち。が。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ
 ぬ。ぬ。け。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ。ぬ。ら。ぬ



くるとるを。さうけいさへさうさ也

五 播磨國陸陽師智徳は師諸

今いじう。播磨國陸陽師と云ふは師ある。名
を智徳といふ。年来其國より。道とて
人よ志す。終る者ある。志するふ。あるは。多
くの物とて。は。船を。漕の。が。する。を。明の
沖を。海賊。あ。いて。船の。物を。う。つ。れ
あ。る。さ。人。業。さ。る。者。さ。く。さ。つ。さ。れ。さ。る。そ。も。船
お。さ。下。人。と。い。海。さ。び。入。く。令。と。あ。さ。り。
陸。あ。つ。て。注。持。さ。る。さ。の。折。う。智。徳。ま。り。て。

何人ぞと問ふれば。船を。う。つ。る。國。より。の。が。り。つ。る
る。げ。沖。を。昨。日。海。賊。あ。い。て。船。の。物。は。さ。う
と。人。い。さ。ら。さ。れ。て。我。等。さ。う。り。希。有。れ。令。ま。す。て
侍。り。ち。り。と。言。ふ。智。徳。さ。ま。い。さ。り。あ。く。さ。は。し
と。ま。す。れ。ぬ。と。み。ま。く。去。奴。と。お。ち。ち。と。せ。さ。り。中
と。い。ふ。船。を。さ。り。つ。れ。よ。り。さ。り。と。い。や。ん。と。い。は。し
あ。い。の。ふ。さ。り。く。つ。ん。の。我。と。な。く。し。智。徳
と。い。ふ。の。何。何。お。ち。さ。う。と。さ。り。船。を。ま。り。く。り。何
さ。り。と。言。ふ。さ。の。と。れ。よ。智。徳。の。船。を。ま。り。て。船。を。と
具。して。沖。を。漕。つ。さ。せ。と。さ。る。船。と。う。り。人。多。海

上より字紙書。後とよみく降よわぐりて後。人多くやして。四め白ゆのきくろふ。船とくはたして七日めわたりくるふ。いづくともおく船一艘をよいまわたり。おこし金をろ人ども無杖を穿して。船をこぼれよせしむ。酒をいづく酔るもの中より。おぎんとせざりくる。是件の海賊とて。さわる所り物なりとせむ。て有りまれば。船をのりおぼゆをく。皆んこびんとて。船をいづくせくる。こをちの老も海賊と云のらんと云くるを智徳とめく。海賊とめし。たつをきくるは

今より後。び園女ありて。うばあるとて。たんことたられ。け園人はむ法師あるぞとて。遊めがくろ。思ひ人お智徳が陰陽乃術とて。海賊とけり。せらる。たれば。智徳もさつて。おそり。さ奴とて。有る。そむ。眩明よわいて。ぞ。徹神をく。これりくる。此事見千字治拾遺物語故畧定。たつた。る。まの具はをた。びい。をきん。ふの掃。園り。有る。と。ん。く。り。他人。と。也。六 人妻成悪霊除其害法湯師語。今いづく。ある。老。年。と。り。れ。妻。と。さ。り。と。る。れ。り。

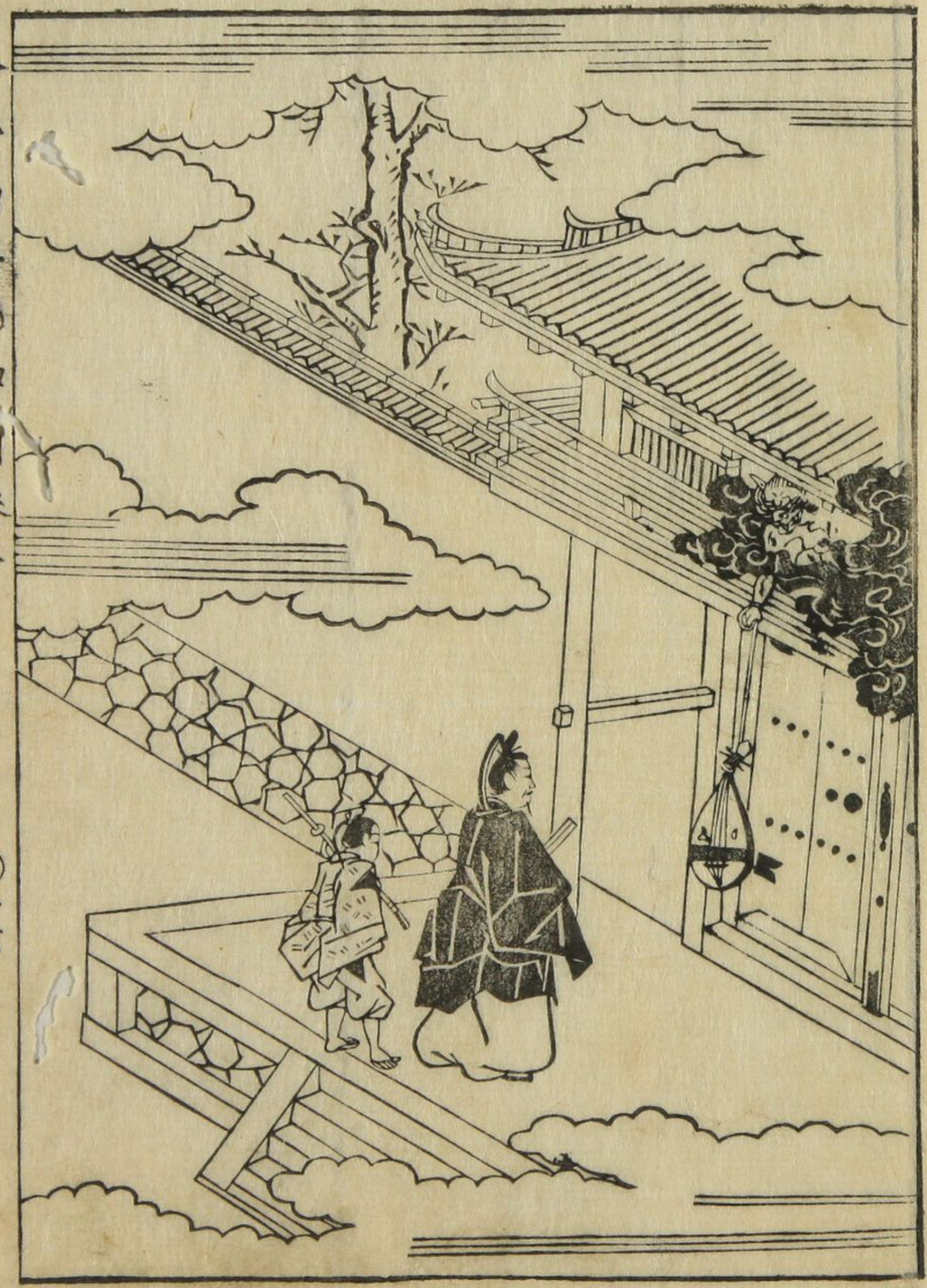
妻より怨をなして。まげさうねりさるあどろ。
うのおれいのはりうそを病つきて久くあやま
死にたり。其女いふ母とてまじりのりたうり
たれい死骸ととりさうく。すつるあまなく。家乃
うらみありまら。つらある故や。まじりむね肉と髪
もやらげして。常にかりうざらとたり。隣家の人物
乃いよりののぞいたんぞ。おそろく来りざりあし。
死てより後家乃肉よえありて鳴きし。隣乃
人かきしめてあげゆいさう。其まこれを書て。
うさういふしるものまれば。うらむとぞ我を

うらむとぞ。うらむとては。其の難とのれ
むらそ。ある陰陽師のまのりて。むらそを諸
あやこのまらふ。陰陽師のま。ばまこりあ
て大まかり。まらわのれむ。むのまよこあ
まば。ゆいさうむ。あま。まらむ。ゆいさう
まま。まら。う。れと。ゆいさう。念じ。まら。ま
目ら。て。陰陽師。うの。死。人。け。あ。る。家。り。ま。を
具してゆいさう。男の。外。を。ゆいさう。身。毛。堅。立
て。む。ら。り。ま。ま。ゆ。い。さ。う。の。あ。ま。ゆ。い。さ。う。ぬ
え。と。あ。り。ま。ま。れ。む。陰陽師。身。を。ゆ。い。さ。て。

湯師ゆしまゝいふ人、物紙ものしもえうけそのら、今いまいそ
あついで。男おとこをさうた具ぐてあうくううく。
のさあのさあうれうらなうれい。おくけいおくけいいつり。
今いまはらはらめおめおをれをれままづづいいづづといいくく。中ちゆうこ
わわくく陰湯師いんゆしととおおくくううくくててままああくくして
くくくくままりり。是こゝららううたたままるるべべいい。その人ひとはは孫まご
ととみみわわりり。其こゝ陰湯師いんゆしの孫まごも大宿おほしゆく通とほりりの所ところ
今いまはは有あるる人ひと。ううくくううくくててままああくく也なり

七 玄象げんさう琵琶びわ乃なり鬼おに被ひ取と取と諸しよ

今いまははししりり村むら上の天あま皇みかど乃なり湯ゆ代しろ也なり。玄象げんさう乃なり子こ孫まご也なり



禁秘抄曰玄上宰相蘇延喜帝琵琶號玄上日本聖皇也系圖
曰藤原直成。三守。有統。諸葛。玄上。歌人琵琶上手。傳曰玄上中
勢太輔刑部卿木工助從三位母百濟王勝義女。玄上兼平三
年正月二十一日卒七十歲以訛說考之玄象當作玄上
みくろいせまより。これいせ乃けさりそのまとい
みくろ公財あり。と。むくろせあまの。天皇い
まげうせまの。うへんげれとけり物の。朕
代うせあまの事よ。かがりまげうせまの。い
あつらわりの。あつらふこの。源博雅醍醐帝孫克明
親玉とつら殿と人あり。びん管絃乃道と得る
及び玄象のうせまの。いせまの。いせまの
う。あつら人あつらうて後。博雅三位清原殿

うそ開うらぬ。南の方いあつらて。玄象とて音
あり。あつらとて。いせまの。いせまの。いせまの。
まきい。いせまの。玄象の音あり。博雅とて。まき
あつらうらぬとて。あつらうらぬとて。あつらうらぬとて。あつらうらぬとて。
いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。
童一人を具して。衛門の陣出でて南の方
いせまの。朱雀門の。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。
あつらあまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。
いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。
あつらあまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。
いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。
あつらあまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。
いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。
あつらあまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。
いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。いせまの。

これをもつてあやしくおぼして。これいんねい
 わらび。いづれおそく鬼などのしるい。そをわらふと
 おぼして。これいんねい。いづれいんねい。まゝ家日ごら
 うせま。天皇のいづれいづれいづれいづれ。今長清
 淨殿あて。すま。南のうら。いづれいづれいづれ。いづれ
 本りのゆるかりといふ。そのいづれいづれいづれ。いづれ
 て。天井よりまゝ家日ごら。繩とつきをせ。ゆるかり。物
 せし。ちが。これとあ。いづれいづれいづれいづれ。いづれ
 由証。まゝ家日ごら。いづれいづれいづれいづれ。いづれ
 う。いづれいづれいづれ。鬼のいづれいづれいづれいづれ。いづれ

いづれいづれいづれ。いづれいづれいづれ。いづれいづれいづれ
 をおぼゆる。まゝ家日ごら。いづれいづれいづれ。いづれ
 物とて。大内女あり。いづれいづれいづれ。いづれいづれいづれ
 けいづれいづれいづれ。いづれいづれいづれ。いづれいづれいづれ
 づは。いづれいづれいづれ。いづれいづれいづれ。いづれいづれいづれ
 現。いづれいづれいづれ。いづれいづれいづれ。いづれいづれいづれ
 め。いづれいづれいづれ。いづれいづれいづれ。いづれいづれいづれ
 らいづれいづれいづれ。いづれいづれいづれ。いづれいづれいづれ
 事。いづれいづれいづれ。いづれいづれいづれ。いづれいづれいづれ

古事談(其書)
 註之(可并考)

まゝ家日ごら
 説見干

八 二善清行宰相紀長谷雄口論話

今いじり延森乃淨時よ。參議三善清行

出自百濟字、耀而、稱三耀紀、丈雄門弟 といふ人あり。其くたる。紀長谷雄

中納言 一名、發昭、字、寬而、稱紀寬、大藏善行門弟 秀才とありあり

清行宰相と口論あり。清行向長谷雄い

く。秀才の性任い。いふより。今いより。世

小きし。そとし和主のよれよげゆるなること

長谷雄これと問といふもあつたりとさしき

ふしや。あつたりとあつたり。是と問人

といふ。あつたりとあつたり。是と問人

いといふ。清行宰相の事のあつたりとさしき

あつたりとさしき。惟宗孝言といふとあつたり。

是も他よあつたり。学せたり。かの口論の事

あつたり。能乃昨合の昨合らして。いふ。他

乃獸の寄付。あつたりとさしき。是の長谷雄

が清行のふとさしき。他の子生い。とい

しより。いといふ。長谷雄は。いといふ。い

あつたり。いといふ。いといふ。いといふ。

いといふ。いといふ。いといふ。いといふ。

いといふ。いといふ。いといふ。いといふ。

観音くわんおんを多うしてのほりく。海うみ文ぶん章しょうをたつこゑぬ
 まば。他た國こくへはつりてまゐりてとてまゐらぬ。
 いふあり示し現げんありありんとあやまらして。まに
 うらうらり。そのらうけをほりて。長なが若わか雄ゆう病びょう
 死しせり。示し現げんれどく他たにまにまなりと。皆みな人
 尸しかばねてうら。昔むかしは紀き伊い言ごんていひ見み也。清きよの事ことね
 の延のび長ながむらぬ人ひとさし。昔むかし若わか雄ゆうよりあよみなり。
 昔むかしよと昔むかし事ことねといひ見みなりとあやま。昔むかし傳でんへり也。

今昔物語二



